

耳鼻咽喉科が扱う病気

2014.05.12 (月)

(2) 鼻に関連した病気

★鼻炎

鼻水が出たり、鼻が詰まってしまう鼻炎には急性と慢性がある。



① 急性鼻炎

急性鼻炎は鼻風邪といわれるもので、数日から1~2週間で回復する。普段から花粘膜を痛めつけたり、空気が汚染された環境の中で生活したりする人々や、抵抗力の弱い子供などに多く起こりやすい病気。

鼻水や鼻づまり、くしゃみといった花症状が一般的。多くの場合、風邪に伴って起こるため咽頭痛や咳、発熱、食欲不振、頭痛なども伴うことがある。

ひどくなると粘膜の腫れが耳管を通して中耳の粘膜へも達して、それぞれ中耳炎や副鼻腔炎を起こす。また、咽頭炎から気管支炎を起こすこともある。



② 慢性鼻炎

鼻の粘膜が慢性的に赤く腫れている状態で、急性鼻炎を繰り返しているうちに症状が続く状態が慢性鼻炎。慢性鼻炎は、アレルギー性のものや鼻腔の粘膜

が厚くなる慢性肥厚性鼻炎まんせいひこうせいびえんなどがある。また、ほこりが多い場所やガスが発生するような工場でマスクもかけずに長時間働いている人もかかりやすくなる。鼻水と鼻づまりが主な症状。

鼻水は粘性が高く、全部を出し切れない場合はのどに落ちて痰として排出される。さらに、鼻水が鼻腔内にたまり、そこへ最近が感染すると膿性になる。鼻の詰まり方は、症状が軽かったり、片方の鼻だけだったり、両方だったりさまざま。



③ 副鼻腔炎

いわゆる蓄膿症と呼ばれるもので、副鼻腔に膿がたまる。膿性の鼻水、頭痛、頭が重いような感覚などの症状が見られ、慢性化すると注意力が散漫したり記憶力が減退することがある。原因はウイルス感染、アレルギー体質、先天的に鼻腔が炎症にかかりやすい体質などが考えられ、症状によっては手術が必要な場合もある。